公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成25年 7月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻536号

ハンドボール

6·7
JUN. JUL. 2013 No.536

特集
第8回春の全国中学生選手権大会
第10回東アジアクラブ選手権
第1回U-22東アジア選手権




〔表紙写真〕第8回春の全国中学生選手権大会、男子優勝　大分中の木田悠也選手(左)、女子優勝　西中原中の山田奨穂選手　写真提供・スポーツイベント社

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/


molten
For the real game
molten®
ACENTEC™
Accuracy Enhancing Technology
INTERNATIONAL HANDBALL FEDERATION

平成 25・26 年度日本協会理事・監事が決定

平成 25 年 6 月 8 日（土）開催の第 1 回評議員会にて理事 28 名・監事 2 名が承認され、その後、6 月 15 日（土）開催の第 1 回理事会において、互選により、会長、副会長、専務理事、常務理事などの役職が決定されました。



平成 25・26 年度日本協会理事・監事

氏　名	ふりがな	役　職	担　当
渡邊　佳英	わたなべ　よしひで	会長	
市原　則之	いちはら　のりゆき	副会長	全般・強化
多田　博	ただ　ひろし	副会長	日本リーグ機構会長、マーケティング
山下　泉	やました　いずみ	特任副会長	
鶴保　庸介	つるほ　ようすけ	特任副会長	
橋本　聖子	はしもと　せいこ	特任副会長	
齋藤　健	さいとう　けん	特任副会長	
川上　憲太	かわかみ　けんた	専務理事	全般、マーケティング本部長
大橋　則一	おおはし　のりかず	常務理事	総合企画室長、総務本部長
角　紘昭	すみ　ひろあき	常務理事	普及指導本部長
津川　昭	つがわ　あきら	常務理事	強化本部長
江成　元伸	えなり　もとのぶ	常務理事	競技本部長
西窪　勝広	にしくぼ　かつひろ	常務理事	日本リーグ委員長、強化委員
蒲生　晴明	がもう　せいめい	常務理事	総務副本部長、国際
藤森　徹	ふじもり　とおる	常務理事	総務副本部長、マーケティング副本部長
志々場　修二	ししば　しゅうじ	常務理事	競技副本部長
藤井　俊朗	ふじい　しゅんろう	常務理事	競技副本部長、審判部長
朝生　和光	あそう　かずみつ	常務理事	組織活性化プロジェクト
春日井　条治	かすがい　じょうじ	理事	社会人連盟理事長
松井　幸嗣	まつい　こうじ	理事	全日本学生連盟
船木　浩久	ふなき　ひろひさ	理事	全国高体連専門部
小越　康雄	こごし　やすお	理事	北海道協会
高山　重雄	たかやま　しげお	理事	東北協会
稲生　茂	いなお　しげる	理事	関東協会
庄司　勝三	しょうじ　かつみ	理事	北信越協会
池本　聡	いけもと　ふさし	理事	東海協会
中村　博幸	なかむら　ひろゆき	理事	近畿協会
山本　一	やまもと　はじめ	理事	中国協会
佐藤　公美	さとう　きみよし	理事	四国協会
田中　守	たなか　まもる	理事	九州協会
村林　裕	むらばやし　ゆたか	理事	総合企画室
東海林　祐子	とうかいりん　ゆうこ	理事	女性委員会
伊藤　宏幸	いとう　ひろゆき	監事 *	
近森　克彦	ちかもり　かつひこ	監事 *	

* 定款第 33 条により理事任期は 2 年であるが、監事は同第 2 項により 4 年である。

第8回 春の全国中学生ハンドボール選手権大会

最終順位

【男子】

優　勝：大分中学校（大分県）

準優勝：名古屋市立桜田中学校（愛知県）

3　位：氷見市立西條中学校（富山県）、福井市明倫中学校（福井県）

【女子】

優　勝：川崎市立西中原中学校（神奈川県）

準優勝：岩国市立平田中学校（山口県）

3　位：京田辺市立大住中学校（京都府）、沖縄市立美東中学校（沖縄県）

男子：大分中学校（大分）、女子：西中原中学校（神奈川）、ともに初優勝！

平成24年度第8回春の全国中学生ハンドボール選手権大会は、平成25年3月24日（日）～3月27日（水）の日程で、氷見市ふれあいスポーツセンター、富山県立氷見高等学校第一体育館、旧富山県立有磯高等学校第二体育館の3会場で行われた。男子は大分県の大分中学校が、女子は神奈川県の西中原中学校が共に初優勝を飾った。

[写真提供：スポーツイベント社]



















[男子優勝] 大分中学校（大分県）

監督　瀧元 泰昭

はじめに、第８回春の全国中学生ハンドボール選手権大会を開催するにあたり、ご尽力いただいた関係機関、関係各位の皆様に改めて、厚く御礼申し上げます。

このたび第８回全国中学生ハンドボール選手権大会において初優勝を果たすことができました。県勢としては昨年の滝尾中学校に続き、２年連続で優勝できたことを大変嬉しく思います。これも創部二年という浅い歴史の大分中学ハンドボール部を、学校の理解、保護者の協力をはじめ小学校時代の指導者方、支えて下さるすべての方々が暖かく見守り続けてくれたおかげで達成できたと感謝しております。そして何よりもこの大会を目標に日々練習を重ねてきた生徒達の努力の賜物です。

大分中学ハンドボール部は平成 23 年の４月に創部されました。大分国際情報高校（旧・大分電波高校）で長年指導された冨松秋先生が「新しい環境でハンドボールを」の思いからスタートをきりました。小学校時代からのハンドボール経験者９人で約２年間取り組んできました。

練習場所の確保等、決して十分練習ができる環境ではありませんでしたが、一年生の時から公式戦を経験し、少しずつ力をつけてきました。体格的にも決して恵まれていない選手達ですが、日々のトレーニングの中に走りのメニューを増やし、コツコツと体作りに励んできました。昨年の滝尾中学校の優勝にも刺激をうけ、一つ下の後輩ながらも、「自分達もいつかは」の思いで日々の練習に取り組みました。

また昨年の JOC のメンバーにも現３年生のうち４人の選手が選ばれ、より高いレベルのハンドボールを経験できたことも大きくチームのレベルが上がるきっかけになりました。

今後の目標は基本をおろそかにせず、夏再び頂点を目指すことです。新一年生も加わり、16 名になりました。全員で目標に向け、新たな挑戦をしていこうと思います。

主将　豊田　翔

「堅守速攻、心は一つ！」をテーマに勝負に勝つための練習に取り組み続けた結果、少ない人数ながら、目標の一つであった「春中優勝」を達成することができました。

全国には、すべてのチームがそれぞれの特徴や得意とするプレーを持っており、その中を勝ち抜くのは困難でしたが、それでもチーム一丸となって戦えたということはとても良い収穫でした。自分達は去年の夏、好展開なゲームで何とか二年生だけで全国中学校大会に出場することが出来ましたが、三年生にとっては最後の大会、自分達の考えの甘さなどがあり、一回戦で敗れてしまいました。それからは自分達の甘い考えを捨て、「体の大きい相手にどのようにプレーするか」「苦しい場面でどれだけ声をかけ合うことができるか」を意識して練習に取り組みました。

年が明けると、県外に遠征や、体の大きい高校生と一緒に練習しました。攻撃面では、ボールを持っていないときのフェイント、視野外の動きを練習し、体格不足を補うことができるようになりました。守備面では、ボールの位置と次のマークをバランス良く見ながら、一対一でしっかり守ることを練習し、急な攻撃展開にもついていくことができるようになりました。厳しい練習の甲斐もあり、自分達は大きな自信を持って大会に臨むことが出来ました。

最後に、自分達はいろんな方々の支えがあってようやく成り立っているチームです。感謝の気持ちを忘れずに「堅守速攻、心は一つ！」夏にもう一度頂点にチャレンジできるよう頑張ります。応援して下さったすべての方々、本当にありがとうございました。



[女子優勝] 西中原中学校（神奈川県）

監督　大房 勝則

川崎市立西中原中学校は過去、春中で準優勝１回、夏の全国大会では準優勝２回という結果を残しています。全国でも常連校としてとりあげていただいているのは、地域の野球チームやドッヂボールクラブなど多くの方々の支えとご協力によって、ハンドボールの楽しさと高い志を持った子たちが入学してくることも大きな要因の一つだと思います。しかし、全国の強豪校に比べれば、小学校からあがってくる生徒は決してハンドボールをよく知っているというわけではありません。ハンドボールの個々の技術は全国レベルでみれば劣っていると言っても過言ではないと思います。

そんな中、過去の先輩方が残した大きな目標に、追いつけ追い越せを合言葉に、一年生から高い目標に向かって日々練習に取り組んできました。

今回の新チームがスタートしてからは、西中原中学校の伝統でもある、ディフェンスから速攻を中心に練習に取り組んできました。市予選では速攻のタイミングは全く合わず、パスミス・キャッチミスから自滅をしてしまう状態でした。しかし、試合ごとの反省を練習で修正するということを、ただひたすら地道に繰り返しながら、徐々にではありますがチームとしてのカタチをつくっていくことができました。

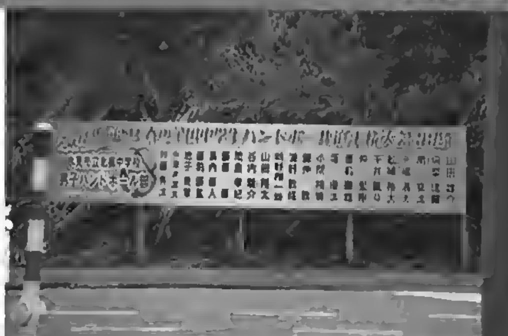
春中に至るまでも、多くの招待試合や練習試合に呼んでいただき自信をつけることもできましたが、プレー以外の所でも反省しなければならないことが数多くあり、本気で勝負をする心の持ち方や、生活態度など多くの事を学ばさせていただき大会に臨むことができました。大会中でも向上心を持ち続け、試合ごとの反省点を部員全員で共有するとともに、全員が今自分ができる事をただひたすら「チームのために」取り組んだことが、今大会の優勝という結果になったのだと感じています。

チームとしても個々としても、まだまだ未熟ではありますが、このような貴重な経験をさせていただいた事を糧とし、夏に向けてまた地道に取り組んでいきたいと思います。

最後に、今回春中の大会にご尽力いただいたハンドボール関係者の方はもちろん、あたたかいおもてなしで気持ち良く迎えていただいた氷見の方々と、優勝に至るまで多くのご声援をいただいた神奈川の先生方に、心より感謝申し上げます。

大会会場の周辺





国道沿道には大会開催案内と、参加する地元中学の選手名入り看板が目立つ



８回目の大会、氷見は町を挙げての大会運営、ボランティアの皆さんも大活躍





会場前には、各県代表中学の校名入りの幟が選手と保護者を歓迎



今年の大会プログラムの表紙は、ポスター作品展最優秀賞の森谷寛さん（氷見市立北部中学校）の作品が飾る

開会式前のアトラクション





氷見市内のマーチングバンド「ムジカグラート氷見」と市内中学生で編成のダンス隊らで、演奏と踊りを披露



恒例となった、「寒ぶりっ娘」の歌で開幕



男子日本代表の宮﨑大輔選手から中学生へシュートの指導



入場行進の先頭は、昨年度優勝の男子：滝尾中学（大分）、女子：けやき台中学（茨城）



大会参加の91校が勢ぞろい、会場には3千人を超える人が参加



渡邊佳英協会会長より挨拶



堂故氷見市長より歓迎のことば



北村茂男総務大臣政務官より祝辞



島久雄市議会議長より祝辞



各校の応援旗が集う中、参加選手を代表して、男子氷見市立西條中学：中島健汰主将と女子氷見市立十三中学校：寺山美妃主将が宣誓



氷見市立北部中学2年の谷内駿介選手より、大会5日間をお互いに頑張りましょうと、応援のメッセージ

第10回 東アジアハンドボールクラブ選手権大会

日程：2013年4月5日〜7日
場所：韓国 亀尾市（クミ市）パク・ジョンヒ室内競技場

男子星取表

順位		斗山	コロ	大同	江蘇	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	斗山（韓国）	＼	22 ○ 18	28 ○ 20	20 ● 24	3	2	0	1	70	62	8	4
2.	コロサ（韓国）	18 ● 22	＼	27 ○ 22	27 ○ 25	3	2	0	1	72	69	3	4
3.	大同特殊鋼（日本）	20 ● 28	22 ● 27	＼	25 ○ 21	3	1	0	2	67	76	-9	2
4.	江蘇省（中国）	24 ○ 20	25 ● 27	21 ● 25	＼	3	1	0	2	70	72	-2	2

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

女子星取表

順位		三陟	仁川	オム	安徽	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	三陟（韓国）	＼	20 ○ 18	23 ○ 20	37 ○ 31	3	3	0	0	80	69	11	6
2.	仁川（韓国）	18 ● 20	＼	23 ○ 22	26 ○ 25	3	2	0	1	67	67	0	4
3.	オムロン（日本）	20 ● 23	22 ● 23	＼	28 ○ 25	3	1	0	2	70	71	-1	2
4.	安徽省（中国）	31 ● 37	25 ● 26	25 ● 28	＼	3	0	0	3	81	91	-10	0

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

男子：大同特殊鋼

東アジアクラブ選手権を終えて

大同特殊鋼総監督　**清水 博之**

この度、4月5日〜9日に韓国で開催された東アジアクラブ選手権に参加して参りました。第37回日本リーグのレギュラーシーズンは4位という結果でありましたが、プレーオフではチーム一丸となり2年連続で栄冠を勝ち取ることができ、今回の大会出場権を得ることができました。大会に挑むに当たり、「日本クラブチームの代表であること」「参加できる男子チームは日本で一チームであること」「これまで一度も勝てていない韓国チームに対し勝利すること」大きく3点を胸に刻み戦いました。

初戦の斗山（韓国）はシュートミスよりリズムを崩し、0対4の非常に苦しい立ち上がりとなりました。なんとか中盤踏ん張り6対6に追い付くも、積極的なプレスDF（3－3）を攻略することができず5点ビハインドで折り返しました。後半はミスからの逆FBを許してしまい、点差をさらに広げられ8点差という不甲斐ない結果となりました。

2戦目の江蘇省（中国）では、再度今大会に参加している自覚と責任を確認し、必ず勝利をする強い気持ち、どんなことがあっても諦めない気持ちをパフォーマンスとして表現することを誓い挑みました。2m近い大型選手が多数いる中国に対し、プレスDFでプレッシャーをかけ前半こそ3点ビハインドで折り返したものの、後半立ち上がりで追い付き終盤さらにDFからのFBで突き放し何とか勝利をものにすることができました。

最終戦のコロサ（韓国）は、初戦の反省を活かし立ち上がりや試合運びを再確認し挑みましたが、逆にプレーが消極的になり得点を奪うことができず、終始リードされ5点差で敗れました。

大会を終え、まだまだ韓国勢との実力差があることを痛感しております。1つは基礎プレーの確実性（パスキャッチ、ノーマークシュート、フットワーク等）2つ目は勝負どころのプレーと集中力(流れを変えるために必要なプレーは何か) 3つ目は戦う姿勢（激しい接触）であります。また中国も大型化に機動力が加わり、優勝した斗山から勝利を奪うなど今後ますます脅威になると感じております。

最後になりますが、今大会を開催するにあたりご尽力ご協力いただきました日本協会関係者、また最後までご声援くださった皆様方、本当にありがとうございました。今回の結果を謙虚に受け止め課題を克服すべく心機一転トレーニングに精進し、来年こそは東アジアの栄冠を日本に持ち帰るべく選手とともに頑張って参ります。今後ともご声援よろしくお願い申し上げます。

第10回東アジアクラブ選手権に出場して

大同特殊鋼ハンドボール部主将　地引 貴志

4月5日〜7日に韓国のクミ市で開催された第10回東アジアクラブ選手権に日本の代表クラブチームとして大同特殊鋼が出場させて頂きました。

今大会に臨むに当たり、まだ一度も日本代表のクラブチームが韓国代表チームに勝てていない現状があり、韓国代表の2チームに勝ち東アジア選手権で優勝することを目標に掲げました。ですが、結果は中国代表チームである江蘇省には勝つことができましたが、韓国代表チームであるコロサ、斗山に負けてしまい3位という悔しい結果に終わりました。

まず中国代表チームの江蘇省と試合をして感じたことは、以前も東アジアクラブ選手権で何度か試合をした事がありましたが、明らかにその時よりもプレーのスピードが上がっており、ミスも少なくなっていると感じました。またプレスDFで高めにプレッシャーをかけましたが、規格外の高さで日本の試合ではあり得ない所からのDSシュートが入ることがあり、いつも以上に厳しく当たりシュートを打たせないように守るしかありませんでした。最終的には相手の体力が尽きてDFからFBで得点し、逆転勝ちすることができましたが、中国チームのポテンシャルの高さには脅威を感じ、今後も簡単に勝つことは難しくなっていくのではないかと感じました。

次に韓国代表2チームと試合をして感じたことは、まず韓国のフットワークを活かした高いプレスDFを崩すことができず、セットOFで得点をなかなか取ることができませんでした。DFの当たりひとつにしても日本ではない程当たりが激しく自由に切らせてもらうこともできませんでした。大同も組織的なDFやOFで対応している時間帯もありましたが、韓国選手は1点を争う緊迫した試合の中でも確実なプレーで確率良く得点に繋げる個人技を持っており、DFでも後手になってしまう場面が目立ってしまいました。

今大会で3試合戦い1勝2敗というとても悔しい結果でしたが、試合を通して感じたことは、国際大会ではどんな状況であっても当たり前のことを当たり前にプレーできる強い精神力がまず一番必要であると感じました。また宿敵韓国に勝つ為には、個がこれ迄以上に心・技・体を練習から鍛えていき、もっと強い集団にならなくてはいけないと感じました。

最後にこの大会にご協力頂いた関係者の方々へ感謝申し上げるとともに、悲願の東アジア選手権優勝を目指してこれからも頑張っていきたいと思いますので、今後ともご声援宜しくお願いします。



女子：オムロン



常に日本リーグの各試合で体を張った激しいあたりの中での体感強化と、スピード感あふれる試合を 1 時間展開できる基礎体力の必要性を強く感じた。特に激しいあたりに関しては、ラフプレーではない DF 正面での厳しい鍔迫り合いでのぶつかり合いを国内試合で実践しない限り、国際大会で通用しないと再確認した。日本ハンドボール協会審判部と日本リーグに参戦しているチームと連携を図り、レフェリングのあり方を考える必要があると痛感した。

誤解を招いてはいけないので国際大会を戦う為には、日本リーグの中で改革していく必要性を私自身が感じた一つであることをご理解いただきたい。

日本リーグのメンバーであるオムロンも、日本がオリンピックに出場できるよう、たゆまぬチーム強化を図ると共に日本リーグを今以上に活性化するように大いに貢献せねばと今大会を通じ感じた。

大会参加にあたりご尽力いただきました、関係各位に厚く御礼申し上げます。

第 10 回東アジアクラブ選手権に出場して

オムロンハンドボール GM 代行　西窪 勝広

第 10 回東アジアクラブ選手権大会が韓国・亀尾市で開催された。亀尾市は現韓国パク大統領のお父様の生まれ育った地との事で、大会開催体育館もパク・ジョンヒ室内競技場との名称がつけられていた。体育館は 5,000 名を集客できる大きさで国際大会を開催する条件を整えた規模であり、日本も国際大会が常に開催できる施設の重要性を感じる次第であった。宿泊関係も韓国を除く中国男女、日本男女の各国チームと大会役員も同ホテルに滞在し食事関係も何ら問題は無く、季節的にも宿泊したホテルの周りは桜が満開で、観光客も多く試合の合間に気持ちの癒される時間も満喫できた。

大会運営に関しては韓国ハンドボール協会、亀尾市ハンドボール協会の細かな配慮で運営され、オムロンチームでは大きな問題も無く、各チームにバス 1 台が割り当てられ輸送もスムーズな管理がされていた。

試合もインターネット中継で発信されており、韓国もハンドボールの人気度アップに努めている姿を垣間見る事が出来、日本と同様な厳しい環境にあるような気がした。

大会 1 日目はオープニングセレモニーが行われ、多くの観客も来場し大会の盛り上がりを感じたが、開幕戦以外の韓国戦も含め集客に関しては寂しさを感じる大会でもあった。

女子に関しては中国との体格差を感じたがスピード、テクニックに関しては韓国、日本がレベルの高さを感じ、対韓国に関しては体格のハンディーは以前と比較するとあまり差を感じる事は無く、組織的なスピードにおいても違和感を感じることは無かった。しかし、個々の身体能力の高さが最終的に 1 点差、3 点差で敗退する結果になった。

今大会に参加し日本リーグの役割の重要性を再確認した。

第 10 回東アジアクラブ選手権について

オムロンヘッドコーチ　黄　慶泳

■大会の準備について

日本リーグのプレーオフが終わってから 1 ヶ月後の大会参加で、メンタル・フィジカル面を維持・強化するのは非常に厳しい部分もあったように思います。しかし、日本を代表するクラブチームとして戦う意味とプライドをかけた戦いをすることを選手たちと確認して大会に挑むことができたと思います。準備期間の中で先ず韓国に対してはスピードを持った個人技、中国に対しては高さとパワーをどう対抗するかにポイントをおいて戦術を考えました。

■試合について

第 1 戦（敗）対 Incheon（韓国） 22（11-11、11-12）23

積極的なディフェンスからリズムを掴み、№ 8 石立のカットインや№ 7 藤井のロングシュートなどで得点し、10 分過ぎまでに 5 対 3 とリードする。相手のミスから速攻やディフ

ェンスの裏を使ったポストプレーで加点し、さらにリードを広げる。その後、相手のゴールキーパーに阻まれ得点が伸びず、その間にロングシュートやポストシュートで失点し 11 対 11 で前半を折り返す。

後半に入り、相手の退場を機にミスを誘いディフェンスから速攻で 2 連取しそのまま抜け出すと思われたが、中盤以降退場者が出て相手に主導権を握られ、残り 3 分を切って 22 対 23 と逆転を許す。ラスト 10 秒、同点を狙っての攻撃はパスが繋がらず、1 点差で惜敗した。試合マネジメントの大切さを改めて感じた試合であった。

第 2 戦（勝） 対 Anhui（中国） 28（16-13、12-12）25

前半立ち上がりから積極的な守りから速攻に繋げたいところであったが、逆に PV にボールを集められて失点が続く中で足が動かない悪い展開であった。藤井のロングや松本と澤田のサイドシュート、石立のカットインで対抗しながら我慢の戦いが続く中で、相手の退場を機にリードを奪い前半を 3 点リードで折り返す。

後半も藤井のロングシュートと松本・澤田の速攻、また金のポストシュート等の加点と相手の退場も重なって一気に突き放してゲームを決める。終盤に相手に押し込まれる場面もあったが、そのまま逃げ切り 3 点差の勝利となった。

大きな相手との戦いで空間の使い方、大きい GK に対するシュートの打ち方、守りの感覚はやはりいつもと違うずれがあった。試合のイメージを持つことも大事だが、常日頃大きい相手に実戦での体験は大事であると改めて感じた試合でもあった。

第 3 戦（敗） 対 Samcheok（韓国） 20（9-11、11-12）23

前半立ち上がりから攻撃的な守りから攻撃の動きの制限をさせる意図でスタートしたが、裏のスペースでの失点が増えて攻撃まで良いリズムで繋げない展開が続いた。その中で藤井のロングと松本の速攻等で対抗して我慢の戦いが強いられ、前半を 2 点差で折り返す。

後半はコートサイドが変わってより走る展開をして逆転勝ちをするイメージを持ったが、速攻の展開の中で判断ミス、パスミスが続いてリズムに乗れない。藤井・東濱のロングシュートと澤田のサイドシュートで終盤残り 3 分で 1 点差まで追い上げたが、作戦タイム後の攻撃で点が取れず連続失点が続いて万事休すとなった。

今日の試合もロースコアには持っていたが、得点が伸びず勝ちきれない課題が残った試合であった。

■今後について

今回の第 10 回東アジアクラブ選手権では 3 位で終わる悔しい結果となりました。

しかし、韓国の個人技と基本戦術の中で激しいコンタクトプレーを伴う攻防戦を徹底する戦い方を目の当りにして、基本の大切さと戦う姿勢を改めて感じました。

また中国の高さとテクニックを兼備したプレーにはアジア情勢の中で大きな危機感を覚えつつ、対処方法には大変勉強になった大会であったと思います。

今シーズンの日程は全て終わりましたが、新しいシーズンに向けてここで得た貴重な経験を糧に、より進化するオムロンチームを目指して努力してまいりたいと思います。

最後になりますが、大会参加に当たりまして多方面からご尽力頂きました各関係者の皆様方には、心からお礼申し上げまして大会のご報告といたします。

本当にありがとうございました。

第 10 回東アジアクラブ選手権に出場して

オムロンキャプテン　**藤井 紫緒**

4 月 5 日から 7 日まで韓国で東アジアハンドボールクラブ選手権大会が行われ、韓国から 2 チーム、日本、中国から 1 チームの計 4 チームでリーグ戦を行いました。

1 試合目は韓国の仁川との対戦、最初固さがありましたが、徐々にペースを掴みリードするもののミスを連続し前半は同点。後半に入り、またもリードをするが自分たちのミスから相手に点を許し 22 対 23 で初戦を落としました。

2 試合目は中国の安徽省との対戦。相手の高さやパワーに押され立ち上がりから警告が多くリードされる場面もありましたが、前半の終盤で相手の退場を誘い、その時間帯に点数を重ねリードして折り返しました。後半もミスはあったもののそのリードを守り抜き、28 対 25 で優勝への望みを繋ぎました。

3 試合目は三陟との対戦、スタートからお互いディフェンスが機能し前半はロースコアの展開となりました。後半、ミスが目立ち出し相手に 4 点差をつけられるが、相手に退場者が出ている間に追いつく展開となりました。しかし焦りからミスを連続し 20 対 23 で敗戦となり、3 位という結果に終わりました。

今大会は、ミスが多く勝てていた試合を自分たちで落とす形になり、オムロンの強さであるディフェンスをする前に速攻で得点を重ねられている展開ばかりでした。また、韓国両チームの個人技のレベルの高さを実感しました。それに勝るチーム戦術や組織で一点を取り、一点を守る強さを身につけなければいけないと感じました。海外のチームと試合をすることで自分たちの課題や不足点を再確認するとともに、違ったハンドボールスタイルを学ぶことが出来、今シーズンのチーム作りに活かしていくことを心に誓い大会を終えました。

今大会を始め、2012 年度のシーズンを通して 1 年間応援してくださった皆様には大変感謝しております。また、運営など私たちをサポートしてくださった皆様にも重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。





会場の SK オリンピックハンドボール体育館内のモニュメント



新たな JAPAN のユニフォームでの初試合となった韓国戦



会場は、まさにアウェー一色、会場全体を巻き込んだ演出には韓国のこの試合に賭ける力の入れようを痛感する。5000 名収容の会場は、ほぼ満員の観衆が集う。







ベンチの清水監督、野村コーチ：リオに向かって新生男子 JAPAN は動き出した

日本代表男子　24（10－14、14－15）29　韓国代表男子

［個人得点］小澤：8点、高智・信太：5点、石戸：4点、地引：2点

日本代表女子　23（12－11、11－15）26　韓国代表女子

［個人得点］東濱：5点、高橋・上町：4点、横嶋・藤井：3点、錦織・石立：2点





女子も新たな JAPAN のユニフォームで登場



試合前の記念写真



ベンチ前での最終ミーティング





ベンチから指示を出す栗山監督と小藪コーチ：リオに向かって感触を掴めたか

館内の電光掲示板は素晴らしく見易い

※詳報は次号にて掲載いたします。

第1回U-22東アジア選手権

1st East Asian Handball Championship U-22

開催地：韓国　天安市（チョナン市）
会場名：Yu Gwan Soo Gymnasium
日　時：2013年5月30日（木）～6月4日（火）

男　子		KOR2	KOR1	JPN	TPE	CHN	MAC	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	韓体大（KOR2）		28○17	32○30	27△27	36○23	40○11	5	4-1-0	163	108	55	9
2位	慶熙大（KOR1）	17●28		37○32	30○29	32○22	46○19	5	4-0-1	162	130	32	8
3位	日　本（JPN）	30●32	32●37		33○27	46○24	55○17	5	3-0-2	196	137	59	6
4位	台　湾（TPE）	27△27	29●30	27●33		37○19	33○19	5	2-1-2	153	128	25	5
5位	中　国（CHN）	23●36	22●32	24●46	19●37		39○20	5	1-0-4	127	171	-44	2
6位	マカオ（MAC）	11●40	19●46	17●55	19●33	20●39		5	0-0-5	86	213	-127	0

女　子		KOR	JPN	CHN	TPE	HKG	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	韓体大（KOR）		27○24	34○20	36○20	41○5	4	4-0-0	138	69	69	8
2位	日　本（JPN）	24●27		27○24	32○12	42○13	4	3-0-1	125	76	49	6
3位	中　国（CHN）	20●34	24●27		28○24	35○16	4	2-0-2	107	101	6	4
4位	台　湾（TPE）	20●36	12●32	24●28		33○17	4	1-0-3	89	113	-24	2
5位	香　港（HKG）	5●41	13●42	16●35	17●33		4	0-0-4	51	151	-100	0

男　子

5月30日（木）

日本 32（17－18、15－19）37 慶熙大

【戦評】大会初日、地元学生を動員し、また、レフリーは韓国ペアの完全アウェー状態でのスローオフ。スタート日本は、石橋の速攻、元木のロングなどで主導権を握る。慶熙大もポスト・カットインなどで応戦する。中盤、韓国の3連続ゴールで11対12と逆転されるが日本も平子のカットイン、藤江のロングなどで粘り、前半、17対18と1点差で折り返す。

後半、杉本のサイド、元木・東江のカットインが決まるが、慶熙大も速攻・カットインなどで攻撃の手を緩めず20対24とされる。中盤から大事なシュートを決められず、ジワジワと離され27対32と5点差にリードを広げられてしまう。残りラスト5分でタイムアウト。メンバーをチェンジし、オールコートマンツーで応戦、堤の速攻、須坂のサイド、田中の速攻・サイドシュートなどで諦めず戦うが失点が止めれず、32対37の5点差で終了。開幕戦を勝利で飾ることができなかった。

［個人得点］元木：11点、石橋：5点、杉本・平子：3点、堤・田中：2点、藤江・須坂・池辺・松本・柳・東江：1点

5月31日（金）

日本 33(17－12、16－15)27 チャイニーズタイペイ(台湾)

【戦評】前日、韓国体育大学に引き分けている台湾との対戦。両チーム健闘を誓い、握手から始まるが、台湾が3秒オーバータイムを取られる反則。日本ボールになるも松井監督の指示で台湾にボールを渡し、再度スローオフのような形から仕切り直す。スタート岩下の好セーブから杉本サイド、石橋速攻、元木のロングで5対3とリード。台湾も左利きの大型BPを起点に11対8と食い下がる。ラスト10分相手の足が止まったところを、東江速攻、田中の活躍により前半17対12で折り返す。

後半、藤江の速攻ロング、松本のポストなどで23対15と突き放す。また、相手が不正交代をして退場となり楽勝ムードのところ相手ベンチの抗議から15分近く中断。再開後、審判の笛が変わりリズムが取れず26対21。日本は、一度落ち着き藤江カットイン、石橋速攻元木7Mなどで立て直す。最後は、最年少玉川のゴールでとどめをさし、大会初勝利を飾った。

［個人得点］元木：9点、石橋：7点、松本：5点、杉本：4点、藤江：3点、東江・田中：2点、玉川：1点

6月1日（土）

日本 55（27－9、28－8）17 マカオ

【戦評】大会3日目、マカオとの対戦。スターティングメンバーを総入れ替えして、全員ハンドボールで臨んだ。左SP柳、左BP須坂、センター田中、右BP池辺、右SP堤、ポスト玉川、GK佐々木の布陣でスタート。スタートの固さからかマークミスで先取点はマカオが奪う。日本は、佐々木セーブから須坂・柳・池辺の速攻が決まり9対2と一気にリードを広げる。マカオもポジションチェンジプレーから追いすがるが、日本は、玉川・田中の速攻で前半で息の根を止めた。

後半は、全員が出場し、55点を奪い快勝した。

［個人得点］池辺・玉川：8点、須坂・石橋・杉本：6点、柳・田中：5点、堤・東江：4点、元木・藤江・平子：1点

6月3日（月）

日本 46（24－15、22－9）24 中国

【戦評】中国戦に向けて、DFはポストの守り、OFは横の2対2、FBは攻守のきりかえを重点的に実施した。スタート東江のフェイントから石橋のサイドシュートで先取点を奪う。中国もポストとロングで応戦する。しかし、日本は攻撃の手を緩めず、東江・元木のロング、杉本のサイド速攻、石橋・松本の速攻で12対4とする。終盤、中国もポストプレーで得点を奪うも加藤の好セーブから速攻を繰り出し、24対15で前半を折り返す。

後半スタート、ポストパスをカットし、元木ロング、石橋速攻、杉本のサイドシュートなどで32対18とする。交代した池辺・堤・玉川らの活躍により46対24と快勝した。

［個人得点］元木：11点、石橋・杉本：7点、玉川・東江：4点、藤江・池辺・堤：3点、平子：2点、須坂・松本：1点

6月4日（火）

日本 30（16－19、14－13）32 韓国体育大学

【戦評】大会最終日、勝利して韓国体育大学の優勝を阻みたいところ、レフリーは、台湾ペアでスタート。日本は、元木の速攻、藤江・東江のポストシュートで攻撃、韓国は、DF 中央からのカットイン・ロングなどで 5 対 5 と一進一退の攻防が続く。中盤から日本のミスが続き、その隙を韓国が確実にシュートを決め 8 対 12 と突き放しにかかるが、杉本・玉川・藤江の速攻で食らいつき 16 対 19 で前半終了。

後半、日本は岩下の好セーブがあるもパスミスやシュートミスで追いつくことができない。中盤からメンバーをフルチェンジして流れを変えようとするがシュートミスが続き、点差は変わらず韓国リード。ラスト 10 分切ったところでタイムアウト。スタートのメンバーに戻し、元木の会場を沸かせるゴールが続くも 2 点差でタイムアップの笛がなる。

レフリーは、問題なく、実力による敗戦であった。代表チームが単独の大学に負けたことを厳粛に受け止め、今後、日本代表として戦う姿勢を全面に出せるように強化していく。

［個人得点］元木：11 点、杉本：5 点、藤江・東江：3 点、石橋・田中：2 点、玉川・堤・平子：1 点

女　子

5月31日（金）

日本 32（16－3、16－9）12 チャイニーズタイペイ（台湾）

【戦評】第 1 回 U-22 東アジア選手権大会初戦の相手は台湾。前半 2 分過ぎに松村の得点で先制すると、立ち上がりから日本のペースとなり、台湾の単調で強引な OF を日本 DF は、機動力を活かし得点を許さない。7 分過ぎに 1 点取られるが、日本の優位は変わらず 19 分過ぎ 10 対 1 としたところで台湾がタイムアウトを要求。タイム後も日本ペースは変わらず、16 対 3 で前半を折り返す。

後半立ち上がり、相手のシュートミスから速攻につなぎ長尾が決め幸先よくスタートを切ると連続得点し、10 分過ぎ 21 対 4 とする。しかし中盤集中力が切れ、連続失点をするなどしリズムが取れない時間帯があったが、試合の大勢には影響なく結果 32 対 12 で勝利した。

［個人得点］長尾：5 点、錦織・川村・松村・角南・多田：4 点、原・松尾・深田：2 点、佐々木：1 点

6月1日（土）

日本 27（15－13、12－11）24 中国

【戦評】第 2 戦の相手は中国。前半立ち上がりダブルポストで攻撃してくる中国に先制を許すが、松尾・松村の連続得点ですぐに逆転すると 5 分すぎ中国がタイムアウトを要求。タイム後、日本は OF ミスが目立ち始めリズムがなかなか掴めず、8 分過ぎ 2 対 3 と逆転を許す。しかし、角南の体を張った OF で退場を立て続けに取り、一気に逆転すると 13 分 6 対 3 とする。ここで中国は 2 回目のタイムを要求。タイム後、互いに点の取り合いとなり、なかなか中国を引き離せない展開が続く。中国は 11 番のロングを起点にポストを多用し始めると、ここから中国ペースとなり、徐々に点差を詰められ前半を 15 対 13 で折り返す。

後半、日本は DF の修正がはかれず真ん中を崩され、2 分 15 対 15 と追いつかれる。ここから一進一退の攻防が続き、15 分過ぎ 20 対 21 と中国にリードを許した場面で、日本はタイムアウトを要求。タイム後 1 点差の展開が続いたが、20 分過ぎ 23 対 23 の場面から日本のペースとなり、連続得点を奪い 28 分 26 対 23 とする。終盤は 1 点ずつ奪い、27 対 24 で終了。

［個人得点］川村・角南：5 点、松尾：4 点、錦織・松村・長尾：3 点、深田：2 点、佐々木・多田：1 点

6月3日（月）

日本 42（21－6、21－7）13 香港

【戦評】第 3 戦は香港との対戦。日本はスタートメンバーを大きく変更して挑む。前半立ち上がり、DF スタートの日本は相手の単調な OF を守りきれず失点を許してしまう場面があったが、徐々に対応しだすと速攻につなげ点差を広げ 10 分過ぎ 7 対 3 とする。中盤、なかなか点が伸びない中、15 分 9 対 4 となったところで香港がタイムアウトを要求。タイム後、日本の優位は変わらず点差をはなし前半を 21 対 6 で折り返す。

後半、DF の安定しない日本は連携ミスから失点してしまいリズムにのれない。しかし香港 DF も日本の OF 陣を止めきれずさらに点差がつき始める。9 分 26 対 9 となり香港がタイムアウト。タイム後も日本ペースは変わらず結果 42 対 13 で終了。

［個人得点］原：11 点、多田・森本：7 点、佐々木：5 点、深田：4 点、林：3 点、松村：2 点、錦織・松尾・長尾：1 点

6月4日（火）

日本 24（11－15、13－12）27 韓国体育大学

【戦評】前半、OF スタートの日本はミスから韓国に速攻で決められ先制点を許す。日本は韓国の早めに仕掛けてくる DF に対して、OF でのリズムを狂わされ韓国ペースの展開となる。9 分 2 対 6 となったところで日本がタイムを要求。タイム後もなかなかペースが掴めない中韓国も決め手にかき 4 点差の展開続く。終盤日本は OF ミスから連続得点を許し 22 分 7 対 13 とされたところでタイムを要求。タイム後は、韓国のミスを得点に結びつけ点差をつめ、前半を 11 対 15 で折り返す。

後半、日本 DF が機能しだし韓国 OF 陣を止めるが、追い込んだシュートが前半同様決められリズムに乗れない。しかし、日本 DF 陣は足を止めずに果敢にプレッシャーを掛け続け 9 分 16 対 18 と 2 点差に追い上げる。ここから中盤まで 2 点・3 点差の攻防が続く緊迫した展開が続く。しかし終盤にさしかかるころ連続得点を許し 20 分 20 対 25 となったところで 3 回目のタイム。追い上げたい日本だったが、終盤韓国 OF 陣はあわてることなく時間を使い 24 対 27 で終了。この大会 2 位という結果になった。なお、ベストセブンに角南・錦織が選出された。

［個人得点］原：7 点、松村・角南：5 点、長尾：3 点、川村：2 点、錦織・松尾：1 点

※詳報は次号にて掲載いたします。

第５回男子ユース世界選手権（ハンガリー）の組合わせ抽選決まる



ユース世界選手権は、2005 年に男子第 1 回、2006 年に女子第 1 回が始まった最も新しい世界選手権である。国際ハンドボール連盟の主催によるもので男子 19 才以下、女子 18 才以下が資格となる。西暦奇数年に男子、偶数年に女子が行なわれ、男子参加国数は前回の 20 ヵ国から 24 カ国に増えた。過去４回の大会成績は、以下の通りである。

年	主催国	金メダル	銀メダル	銅メダル
2005	カタール	セルビア・モンテネグロ	韓国	クロアチア
2007	バーレーン	デンマーク	クロアチア	スウェーデン
2009	チュニジア	クロアチア	アイスランド	スウェーデン
2011	アルゼンチン	デンマーク	スペイン	スウェーデン

過去アジアからの参加国と成績は、以下の通りである。

	2005	2007	2009	2011	2013（今回）	参加回数
バーレーン		8 位		17 位		2
イラン	8 位	12 位	10 位			3
日本					○	初
クウェート			19 位			1
カタール	5 位	10 位	13 位	15 位	○	5
韓国	2 位	11 位		11 位	○	4

日本は、2012 年９月６日（木）－９月 15 日（土）バーレーンにて開催の《第５回男子ユースアジア選手権》において見事準優勝を果たし世界選手権への出場権を得た。

〈最終順位〉

優勝：カタール　**準優勝：日　本**　3 位：韓　国　4 位：バーレーン　5 位：サウジアラビア　6 位：イラク　7 位：シリア　8 位：イラン　9 位：クウェート　10 位：チャイニーズタイペイ　11 位：ウズベキスタン　12 位：オマーン

第５回男子ユース世界選手権参加の 24 チームの抽選は、ハンガリーの会場都市ブダオロスシティホールで木曜日（2013 年５月 23 日）に実施された。大会は、ハンガリーのブダオロスとエールドで８月９日から 23 日まで開催される。

組・都市	1	2	3	4	5	6
Aグループ Budaors	デンマーク (DEN)	エジプト (EGY)	ベラルーシ (BLR)	**日本 (JPN)**	セルビア (SRB)	チリ (CHI)
Bグループ Budaors	スウェーデン (SWE)	スロベニア (SLO)	カタール (QAT)	チュニジア (TUN)	韓国 (KOR)	ルーマニア (ROU)
Cグループ Erd	スペイン (ESP)	クロアチア (CRO)	アルゼンチン (ARG)	ブラジル (BRA)	アンゴラ (ANG)	フランス (FRA)
Dグループ Erd	ドイツ (GER)	オーストリア (AUT)	ハンガリー (HUN)	ノルウェー (NOR)	ベネズエラ (VEN)	ガボン (GAB)

各組上位４チームが決勝トーナメントへ、残りの８チームがプレジデンツカップで 17 位から 24 位を争う。

大会抽選の様子（ＩＨＦ・ＨＰより）





2020 オリンピック・パラリンピックの開催都市は、来る9月7日（土）開催のIOC125回総会（ブエノスアイレス・アルゼンチン）で決まります。この総会では、他にもレスリング、野球・ソフトボール、スカッシュの3競技から最後の一つの競技が決定され、更には会長選挙と重要な議題が多々あります。発表されたIOC総会の予定では、9月7日はイスタンブール、東京、マドリードの順に最終のプレゼンテーションが夫々45分間に亘り実施、終了後にIOC委員約100名（欧州選出委員が4割以上を占める）により投票が行われ夕方の17時には開催地が発表されます。翌8日には最後の競技種目1競技が決定、10日には会長選挙があり、総会は終了します。

（注）時間は何れも現地時間です。日本とブエノスアイレスとの時差は12時間です。日本の方が、12時間進んでいます。

決定迫る！ 2020オリンピック・パラリンピックを東京に!!

支持率調査結果、77%に！（独自調査：前回73%＋4%）

東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会は、第6回東京2020オリンピック・パラリンピック招致支持率調査を実施、その結果を発表しました。（以下、東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会HPより抜粋）

調査主体	IOC【参考】	招致委員会					IOC【参考】	招致委員会
		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回		第6回
時期	2012 5/24 立候補都市選定時公表	＊2012 7/14-22 ロンドン大会前調査	＊2012 8/18-30 ロンドン大会後調査	＊2012 10/10-22 調査	＊2012 11/22-12/2 調査	＊2013 1/10-20 立候補ファイル提出後調査	2013 3/5 評価委員会訪問時公表	＊2013 3/9-20 評価委員会訪問後調査
賛成 (Support)	47%	58%	66%	67%	66%	73%	70%	77%
どちらでもない (No opinion)	30%	26%	20%	21%	20%	15%	—	14%
反対 (Against)	23%	16%	14%	13%	14%	12%	—	9%

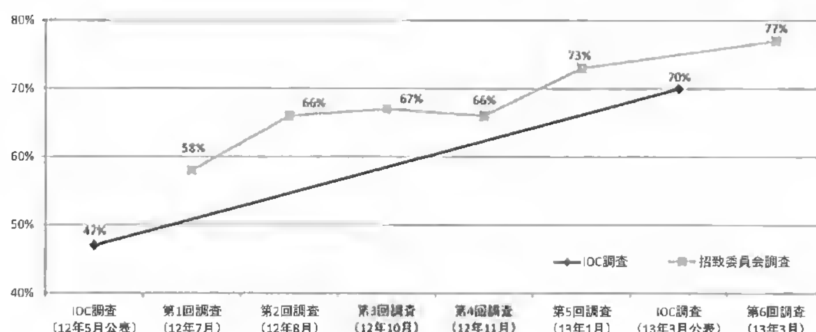
【調査概要】

■調査方法：電話調査 *IOCによる支持率調査を参考の上、招致委員会として独自に調査。

■実施時期：2013年3月9日（土）～20日（水）

■対象地域：東京23区、多摩地域・島しょ部

■調査対象：18歳以上男女（サンプル数：400）



■過去の調査結果との比較

■調査結果の解説：（　）は前回調査結果

- 今回調査では「賛成」の合計は、77%（73%）で前回実施した調査から4%増加し、前回調査からさらに支持率が上昇する結果となりました。
- 「反対」合計は9%（12%）で3%減少となりました。
- 「どちらともいえない」は、14%（15%）で1%微減となりました。

■調査結果に対するコメント

今回の結果について、東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会としては、3/4～7のIOC評価委員会視察を多くの報道に取り上げて頂いたことにより、大会を開催する実感が国民の皆様にメッセージとして伝わり、招致活動への理解が深まったことが支持率向上へと繋がったと考えます。また、IOCの調査でも70%の支持を獲得したことが公表されたことにより、さらに招致気運が醸成されました。関係各位のご協力と国民の皆様からのご支援に心から感謝いたします。

今後は、各種国際会議におけるプレゼンテーション等や7月に行われるテクニカルブリーフィング、そして9月7日のファイナルプレゼンテーションに向けて、東京が目指すオリンピック・パラリンピックの魅力を一人でも多くの方にご理解頂けるよう活動していきます。

オリンピック・パラリンピックを東京に招致することだけでなく、大会を開催し、成功に導くためには、国民の熱意と理解は必要不可欠です。東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会では、これからも国民の皆様と一体となった招致活動を様々な形で行って参ります。

～「リオ」へ続く道～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

「新生」ニッポンが果たしてリオ・オリンピックへの道を切り開くかー。球界はもとよりスポーツ界からも注目されている。現在のところは男子・清水、女子・栗山の新監督の手腕に期待を寄せるしかないが、一つの高いハードルとみられている韓国との定期戦が2年ぶりにソウルで行われた。

男子は年初のスペイン遠征以来、女子は年末のアジア選手権（インドネシア）に続く国際試合だった。ともに白星とはいかなかったが、スペインで、そしてインドネシアで体験した課題の克服、あるいはチームとしての習熟度を図る上でも貴重な戦いだった。

今シーズンは日本リーグ・プレーオフが終わるとすぐに始動したジャパン。清水監督は「個の力」の重要性を強調し、栗山監督は「考えるプレー」の浸透に狙いを絞ってきた。合宿での競り合いからどのようにレベルアップが図られたかが、問われる日韓戦でもあった。

今回のメンバーは男女とも6人の新しい顔を注入した。いわばフレッシュなイメージをアピール、チーム内の激しいバトルを期待しての起用でもあったのではないだろうか。

新しい戦力には、勝負への厳しさ、ゲームの駆け引きなど、国内では得られない貴重な体験ができたと思う。こうした貴重な財産は、代表活動だけに留めていては進化はない。それぞれのチームに戻った時も、同じ考え、鍛練を継続していくことがさらなる個々のレベルアップ、代表の戦力の底上げにつながっていく。

今後、男女ともヒロシマ国際に出場し、ヨーロッパ遠征を予定。その後、男子は来年1月のアジア選手権（開催地未定）に向けて戦術などに磨きをかけ、女子は、年末の世界選手権（セルビア）に合わせ実戦を通してチーム力アップに取り組む予定という。

栗山監督が提唱する「考えるプレー」は、これまでも指摘されてきたが、ハンドボールだけではない。多くの競技関係者が指摘するテーマでもある。現代の若者に共通して言えることかもしれない。「言われたことをする」だけでは、たとえ成長しても進化の幅は限られることは明らかだ。

進行形のゲームの中では、場面々々の状況に応じてどう対応するかが勝負に対しての大きなキーワードではないかと思う。「やらされるプレー」から自ら考えて「やるプレー」が世界で戦うためにはとても重要なことである。

日本人としてのプライド、日本人の特性を生かした技術と頭脳をマッチングさせて、アジアでの頂点を目指したい。リオへの道はたやすくはないだろう。でも、それを乗り越えなくてはならない使命が代表だろう。

第21回全日本マスターズ大会 in いわて花巻 でお会いしましょう♪

文責　岩手県協会　中島昭博

今夏８月２日～４日、岩手県花巻市において開催する第21回大会についてお知らせいたします。

大会の趣旨

「スポーツは、人生をより豊かにし、充実したものとするとともに、人間の身体的・精神的な欲求にこたえる世界共通の人類の文化の一つである。心身の両面に影響を与える文化としてのスポーツは、明るく豊かで活力に満ちた地域社会の形成や、個々人の心身の健全な発達に必要不可欠なものである。」というスポーツ基本法の精神は、本年度で21回を迎える本大会がハンドボールを通して具現化しようとしてきた趣旨に合致するものである。これまでの歩みに自信と確信をもち、わが国のハンドボールの更なる発展と普及、ハンドボーラーのスポーツライフ充実を願って開催するものである。

また、「すべてを参加者の手作りで」を基本理念とし、準備から運営までをすべて参加者でできるよう最大限の努力をするものである。

今大会のトピックス

▶ “60歳以上部門” 新設…特別ルール参照
▶ 11人制部門 “第10回記念” …８月２日（金）11:00～11人制大会（天然芝フィールド）
▶台湾マスターズチーム参加…男：高雄市チーム、女：調整中
▶台湾小学生チーム来花…岩手県内スポーツ少年団と交流
▶スポーツツーリズム…宮沢賢治記念館、世界遺産　平泉（中尊寺・毛越寺）、盛岡さんさ踊り、被災地復興応援など
▶ 2020開催地決定（9/7）直前オリンピズム…岩手出身　首藤信一さんほかオリンピアンと子供達とのセッション
▶国体PR…2013東京、2014長崎、2015和歌山、2016岩手、2017愛媛、2018福井、2019茨城、、、

今大会の概要

（１）日程
８月２日（金）17：00～　開会式・競技運営委員会
８月３日（土）　9：00～　ゲーム開始
　　　　　　　19：00～　懇親会
８月４日（日）　9：00～　ゲーム開始　（競技終了後、閉会式）

（２）試合方式
参加するチームを４つの性格のグループに分類してゲームを実施する。
競技Ⅰ（交流型）、競技Ⅱ（順位決定型）、競技Ⅲ（男子60歳以上、女子50歳以上）、競技Ⅳ（11人制）

（３）参加申込
日本協会ホームページ参照

（４）大会本部	花巻市総合体育館	025-0066	花巻市松園町50	TEL　0198-23-1611／FAX　23-1775
（５）競技場	花巻市総合体育館	025-0066	花巻市松園町50	TEL　0198-23-1611
	花巻市民体育館	025-0075	花巻市城内1-43	TEL　0198-23-5270
	富士大学スポーツセンター	025-8501	花巻市下根子450-3	TEL　0198-23-0607
	まなび学園体育室	025-0075	花巻市花城町１－47	TEL　0198-23-4234
	日居城野陸上競技場	025-0066	花巻市松園町613	TEL　0198-23-6150

（６）大会事務局
第21回全日本マスターズハンドボール大会 in いわて花巻事務局
高橋宏明　〒025-0076　岩手県花巻市城内1-43　花巻市民体育館内
TEL･FAX 0198-24-0611　携帯TEL 090-3122-7414　e-mail m.hand.hanamaki@gmail.com
（職場）花巻市役所スポーツ振興課　TEL　0198-24-2111（内293）

今大会は、本来であれば、沖縄県開催の順番であったところを、日本協会及び沖縄県協会のご高配により、東日本大震災復興支援「とどけよう　スポーツの力を東北へ！」として、平成16年（第12回大会）以来９年ぶりに、岩手県で開催させていただく運びと相成りました。

被災後、全国各地、海外からたくさんの励ましとご支援をいただいてきたことへの感謝の念をもって、花巻市の支援をいただきながら、（公財）日本ハンドボール協会マスターズ専門委員会、岩手県ハンドボール協会、岩手県社会人ハンドボール連盟、花巻市ハンドボール協会の主幹担当者によって、愉快で意義のある大会となるよう鋭意運営準備を進めてまいりますので、どうぞ奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

国際ハンドボール連盟における６ヶ月間の研修について

稲福貴史



私は日本ハンドボール協会の研修生として、国際ハンドボール連盟（以下、IHF）において６ヶ月間研修を行いました。本研修の目的は、国際大会運営や競技普及活動、IHF本部における各種業務内容について学ぶことでした。IHFにおいて研修を実施できたことにより、各種業務を通して各国連盟の取り組みやIHFとの連携活動などについて知る良い機会にもなりました。今回の研修で私が担当した業務内容や諸活動を通して気づいたことなどをご紹介いたします。

IHFにおける研修内容

IHF本部では事務局長を含め19人の職員が勤務しており、ファイナンス、マーケティング、メディア対応、各種国際大会、会議や講習会の手配、アンチ・ドーピング等の業務にあたっています。今回の研修で私が配属となったのは、ハンドボールの普及活動を主な業務とするスポーツ部門でした。この部門では４名の職員が勤務しており、ハンドボール発展途上国における各種普及活動に取り組んでいます。主な業務は “IHF Trophy” と呼ばれるハンドボール発展途上国を対象とした国際大会、“IHF the Four year plan” と呼ばれる４カ年の活動支援となります。

今回の研修で取り組んだ業務の大部分は、IHF TrophyとIHF the Four year planの２つの活動に関する資料作成でした。

まず１つ目のIHF Trophyについてご紹介いたします。IHF Trophyとは、ハンドボールが普及していない（競技力の低い）国々の若い選手（男性:20歳以下、女性：19歳以下）を対象としたIHF主催の国際大会です。公式試合を経験する機会の少ない選手に対して国際大会に参加する機会を提供するとともに、他国の同年代の選手と友好を図る機会とされています。また、若手の指導者や審判員も合わせて招集し、大会期間中に講習会を実施しています。この大会はIHF主催による開催ですが、大会運営は参加国のいずれかの連盟が行うこととなっています。本大会は選手や指導者のみならず、各国連盟に国際大会の運営を経験する機会ともされています。

この取り組みにおけるIHFの業務としては、大会開催までの諸手続きを調整することです。まずは大会参加の呼びかけや運営国の打診を行います。その後、参加国及び選手一覧、大会会場等を記載した開催要項や対戦表を作成し、大会を運営する連盟へと提供します。私が担当することになったのは、選手や指導者の名簿、各国連盟の渡航日程等を記載した開催要項、対戦表や大会結果表の作成でした。開催要項や参加者一覧等の作成は、開催要項の記載項目に沿って各国連盟から提出された詳細を入力する単純な作業でした。対戦表の作成については、組み合わせの雛形に従い、グループ分けや組み合わせを私の判断で決めることができました。当然作成後はIHFの主担当者及び大会を運営する連盟に確認しますが、IHF公式試合の組み合わせを作成するという緊張する業務の１つでした。

もう１つの担当業務だったIHF the Four year planは、私がIHF本部で研修を始めた時期から本格的に取り組みが開始されました。このプログラムはハンドボール発展途上国へ４カ年の活動計画を提案するとともに、各種活動の支援を行う取り組みです。IHFから提案される活動計画には、IHF Trophyへの参加や国内における普及活動、指導者や審判員の講習会実施、助成金の支給や国際オリンピック委員会のプロジェクト参加等が盛り込まれています。このプログラムでは事業概要を記載したガイドライン及び、国内のハンドボールの現状（選手や指導者数等）や連盟の運営状態等に関する質問事項が記載された用紙を配布します。その回答内容を参考に各国連盟に合わせた計画案を作成します。この業務において、私はインド連盟へ提出する計画案の原案作成を担当しました。計画案は雛形に沿って競技人口や国内大会数、指導者数等を参考に作成し、IHF本部の担当者と協議し実施プログラムの追加や修正を行い、各連盟へと提出し更に精査します。その後、各国連盟からの要望を踏まえた上で最終的な計画書が完成となります。IHF four year planの活動はまだ始まったばかりで、現在は数カ国のみの実施となっており、今後徐々にIHF Trophy参加国等の計画案を作成する予定となっています。

この業務を通して、IHFのハンドボール途上国に対する普及活動の詳細を知ることができたとともに、複数の国のハンドボールの現状を確認する良い機会となりました。そして各種プログラムの中には日本国内でも実施できるような活動もあり、今回IHFから頂いたプログラムの資料や指導マニュアルは、日本協会の普及活動やハンドボール初心者に対する指導の参考にできるのではないかと思います。

上記のスポーツ部門における業務の他に、2013年スペインで開催された男子世界選手権のトレーニングスケジュール、オフィシャルや審判員一覧などを記載した資料の作成業務を担当しました。また、各国際大会の結果をまとめた冊子に試合結果やランキング等を追記する作業、オリンピックや世界選手権等に参加したチーム及び選手の大会参加回数の調査、国際審判員の国際大会参加歴一覧などの資料を作成しました。その他には、私の研修期間中にIHFムスタファ会長が訪日することとなり、ビザ取得や訪日日程の確認作業など、IHFと日本協会の連絡役を担当する機会もありました。

本研修でIHFにおける各種資料作成やIHF会長や役員の訪日に際する各種手続き等について学ぶことができたとともに、IHF職員の担当業務の詳細や本部における意思決定の過程について知るこ

とができました。また、研修業務の際に取得した各種国際大会資料や資料の雛形、IHF 役員や審判員の略歴等については、今後の日本協会の国際的活動に活用できるものだと思います。

研修を振り返って

今回の IHF における研修で改めて感じたことは、国際機関において勤務するには単に英語が話せるだけではなく、議論のできる英語力が必要だということです。意思疎通ができる程度の英語力ではなく、自らの意思や考えを正確に伝え他者を説得できる英語力がなければ、国際機関で活動するのは難しいと感じました。そして、英語の他にもう一言語話せることが必要だと思いました。IHF は英語、ドイツ語、フランス語を公用語と定めています。IHF に勤務する方はフランス国籍やドイツ国籍の方が多数を占めており、日常会話も英語以外にドイツ語やフランス語で行うことが多くありました。フランス語やドイツ語で会話が始まる度に、どちらかの言語を読み聴きできるようになるだけで得る事の出来る情報量が違うと感じました。今後は英語力を鍛えることはもちろん、新たな言語を学習したいと思います。

フランス語やドイツ語を話せるようになることが必要だと感じたとともに、会話の内容や知識についても考えさせられることが多くありました。異なる国籍・アイデンティティを持つ人々のなかで、自国の政治や経済、人々の暮らしについて質問された際、論理的に説明をすることが求められました。また、欧米の文化を知らなければ話に入っていけないことも多々ありました。彼らは自国や欧州の政治・経済・文化に関することはもちろん、中東やアジア、南米など、幅広い知識を持ち積極的に主張してきます。ある職員に伺ったところ、「国際機関に勤務しているので、欧州に関することはもちろんだが、その他の大陸に関しても意識して情報収集をするようにしている」と話していました。

6ヶ月という短い期間ではありましたが、業務内容に関することはもちろん、国際社会で活動するために求められる要素など、学べたことは非常に多くありました。今回の IHF における研修では、日本人がハンドボールの国際社会で活躍するには、ネイティブ並みの英語力で、欧米の人々と対等に会話や議論のできる知識と国際感覚が必要だと強く感じました。今後は今回学んだことを生かせるよう、そして英語力を鍛え国際感覚を養えるよう日々精進していきたいと思います。

最後に、今回 IHF における研修という非常に貴重な機会を頂けたことを深謝いたします。



平成 25 年 5 月 15 日

各ブロック協会理事長　殿
各連盟理事長　殿
各都道府県協会理事長　殿
各加盟団体競技運営担当者　殿
各登録チーム責任者　殿

（公財）日本ハンドボール協会
会長　渡邊　佳英

ゴール等競技用具の安全管理について（通知）

拝啓　時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は本協会の競技運営に格別のご尽力を賜りましてありがとうございます。

さて、テレビニュース、新聞等で、5 月 12 日に東京都内の中学校グランドでハンドボールゴールが倒れて小学校２年生の女子がその下敷きになり、意識不明の重体となっているという報道がありました。非常に痛ましい事故であり、あってはならないことです。

ハンドボールゴールの事故であり、管理をキチンとしていれば未然に防げた事故かと思います。つきましては、以前にもお願いいたしましたが、ゴールによる事故防止策については、関係方面において十分に周知徹底されますよう、一層のご配慮を賜り、関係方面にご連絡いただくようお願い申し上げます。

敬具

記

ゴールを使用して競技をする場合、保管する場合、状況に合わせたそれぞれの方法により、事故防止のために、より一層の安全措置を講じ周知徹底すること。

例として、**「ボルトで床と固定をする」、「グランドと基部の間に杭を打つ」、「横に寝かして管理する」、「前後部のバー及び上部の金属部にぶら下がらない指示を徹底する」、「ゴールネットで遊ばない」、「競技用具本来の使用の目的以外に利用しない」**等の具体策を以て、ゴール等競技用具による事故が起こらないように安全対策の再確認をすること。

以上

平成25年度　第16回ハンドボール研究集会要項

テーマ　「ゴール型教材としてのハンドボール―その6―」

趣　旨　平成20年3月28日に改訂告示された小学校新学習指導要領では、5・6年生のボール運動が現行の種目の列挙を改定して3つの型に分けられ、多彩な運動が選択できるようになった。すなわち、内容の取扱いの中で、「ゴール型はバスケットボール及びサッカーを、ネット型はソフトバレーボールを、ベースボール型はソフトボールを主として取り扱うものとするが、これらに替えてそれぞれの型に応じたハンドボールなどのその他のボール運動を指導することもできるもの」とされ、さらに「学校の実態に応じてベースボール型は取り扱わないことができる」とされた。すでにハンドボールについては、従前の指導要領の全面実施によって、多くの授業実践が報告されるようになってきた。そして今回の改訂までの間、ほぼ10年間に渡る学校体育ハンドボール検討委員会の活動の成果として、ハンドボールは子どもたちの投能力を中心とした体力・運動能力の向上に適していることに加えて、他のボール運動より教材づくりや戦術学習が容易であること。さらに、小学1年生から6年生までの児童にとって取り組みやすく、楽しくできることなど、独自の諸特性をもっていることが明らかにされている。従って今回の改訂を受け、走・跳・投のバランスのとれたハンドボールの教材としての価値をさらにアピールしていくとともに、低・中学年のゲーム領域、及び中学校の球技との関連性を考慮した一貫指導体系を確立していかねばならないという必要性に迫られている。そこで本研究集会では、ハンドボールの魅力や諸特性に対してさらに認識を深めると同時に、子どもたちの発育・発達に見合ったゴール型教材としてのハンドボールの指導体系の構築を目指した内容について研修する。

主　催　公益財団法人　日本ハンドボール協会

主　管　愛媛県ハンドボール協会

後　援　文部科学省　愛媛県教育委員会（申請中）
松山市教育委員会（申請中）

対　象　小学校、中学校及び高等学校教諭。教員養成大学学生、大学院生及び教員。地域スポーツ指導者。
日本ハンドボール協会J級指導員等。

会　期　平成25年　7月30日（火）～31日（水）

会　場　松山市青少年センター
〒790-0864　松山市築山町12-33
TEL 089-907-7826　FAX 089-907-7827
松山市立たちばな小学校
〒790-0055　松山市針田町209番地1
TEL 089-971-8410　FAX 089-971-9907

日　程

7月30日（火）

受　付　12：00～12：30（松山市青少年センター）
開会式　12：30～12：50
講　演　12：50～13：50
講師　国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官（併）文部科学省教科調査官　　石川泰成
研究発表　14：00～15：10
実技研修　15：40～17：10
講師　筑波大学体育系助教・男子ハンドボール部コーチ　ネメシュ・ローランド
交流会　18：00～20：00

7月31日（水）

受　付　8：30～9：00（松山市立たちばな小学校）
授業提案　9：00～11：00
松山市立たちばな小学校
6年「ハンドボール」授業
質疑応答・討論会
講　義　11：00～12：00
講師　神戸親和女子大学学長　三木四郎
閉会式　12：00～12：15

学校体育ハンドボール検討専門委員会事務局
〒010-8502　秋田県秋田市手形学園町1-1
秋田大学教育文化学部スポーツ・健康教育講座　佐藤　靖気付
TEL & FAX 018-889-2577
E-mail：yasushi@ed.akita-u.ac.jp

大会事務局
〒790-8521　愛媛県立松山東高等学校内
愛媛県ハンドボール協会事務局　　田村敏明
TEL089-943-0187　FAX 089-934-5766（松山東高等学校）
TEL090-5918-5803（携帯）E-mail:tamura-toshi@esnet.ed.jp

参加費　4,000円（学生、大学院生2,000円。資料代、及び保険料込み。当日受付にて徴収いたします。）

参加申込　参加を希望される方は、①氏名　②年齢　③勤務先　④連絡先住所・電話番号　⑤交流会参加の有無を明記の上（書式自由）、ハガキ、ファックス、またはEメールにて大会事務局までお申し込み下さい。
1）締切り日：特に設けません。当日も受け付けます。
2）派遣書が必要な場合は、その旨ご記入下さい。

発表申込　研究集会のテーマに関係する研究、及び実践報告を募集します。発表を希望される方は、大会事務局、または専門委員会事務局まで直接ご連絡下さい。
1）口頭発表・質疑時間：発表時間は、質疑応答時間を含め、一演題につき約12分です。発表時間は演題数により変更することもあります。
2）発表にはビデオ、パワーポイントまたは資料等を使うことができます。資料を配布される方は、100部程度ご用意下さい。
3）締切り日：平成25年7月19日（金）
尚、資料の送付を希望される方は、期限までに大会事務局までご郵送下さい。その他、発表に関してご不明な点は、大会事務局までお問い合わせ下さい。

宿　泊　宿泊を希望される方は、7月19日（金）までに下記連絡先までお申し込み下さい。交流会会場の東急インホテル（松山市一番町3-3-1）を主とした松山市内のホテル（一泊朝食付き）6,000～9,000円でご案内いたします。
連絡先：株式会社　漣観光社　井門
TEL 089-932-3373　FAX 089-932-3375

平成25年度授業実践推進制度に基づく授業実践者募集要項
「小学校体育科授業におけるゴール型ハンドボール教材の展開について」

1　趣旨

小学校におけるゴール型教材としてのハンドボールの課題について、総合的に授業実践を行ない、体育科授業の充実を図るとともに、ハンドボールの普及を図る。

2　授業実践内容

（1）授業実践のテーマは次のとおりとする。

ア　児童の体力（投能力）の向上に関する取組の在り方と進め方。

イ　簡易ゲーム（タスクゲーム等）の工夫とその指導の在り方。

ウ　ゴール型教材としてのハンドボールの指導体系の在り方。

エ　その他

（2）授業実践者は、「ゴール型ボール運動」、もしくは「ゴール型ゲーム」でハンドボールを取り上げ、上記の内容から二つ以上のテーマを選び、その一つを主テーマとして、授業実践を進めることとする。

3　授業実践期間

おおむね2年間とする

4　対象授業実践者

各都道府県協会より推薦された教員の中から8名程度選出する。選出は（公財）日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討専門委員会で行なう。

5　授業実践に当たって

（1）授業実践者は、校内における授業体制を整備し、必要に応じて家庭や地域との連携も図りながら、計画的、継続的に授業実践を推進する。

（2）授業実践者は、（公財）日本ハンドボール協会、都道府県ハンドボール協会（市町村ハンドボール協会）の助言の下に授業実践を推進すること。

（3）授業実践者は、第1年次には授業実践の中間報告書を、また授業実践期間の終了時には授業実践成果報告書を、都道府県協会を経由して日本協会に提出すること。

（4）日本協会は、必要に応じて授業実践者および都道府県協会と連絡をとり、授業実践の推進について意見および情報の交換を行なう。

6　経費

日本協会は、授業実践の委託費として予算の範囲内で支出委任する。委託費は、1年目が6万円、2年目が4万円とする。

7　その他

日本協会は、必要に応じて実施状況および経理処理状況について、実態調査を行なう。

8　締切

第一次締切：平成25年7月19日（金）

9　申込、および問合せ先

ご不明な点は、以下にお問い合わせ下さい。

（公財）日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール
検討委員会（代表　佐藤　靖）
〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
秋田大学教育文化学部
スポーツ・健康教育講座　佐藤研究室
TEL/FAX:018-889-2577
E-mail:yasushi@ed.akita-u.ac.jp

2013 年度　全国大会レフェリー名簿

（平成 25 年 5 月 15 日）第 1 版

大会	開催地	期日	審判員氏名
第 3 回 社会人選手権 （8 ペア）	山口県 周南市	7 月 3 日 ～ 7 月 7 日	◎吉田敏明　○大熨嘉彦 池渕智一・檜崎　潔（協会指名）　黒木龍二・黒木秀吾（協会指名）　浦川寿生・石崎章弘（協会指名） 小川至門・内記　徹（協会指名）　北山力也・貝田良寛（兵庫）　堀江成典・東野流生（東京） 岡田雅央・藤本靖雄（開催県）　松本光則・南川裕隆（愛知、社会人）　山口　修・東　慶一（高知、山口、社会人）
第 26 回 全国小学生大会 （4 ペア）	京都府 京田辺市	8 月 1 日 ～ 8 月 4 日	◎岡辺清和　○川勝裕義 岡村敏行・濱口雄飛（兵庫）　川田真二子・東サヤカ（和歌山）　松本光則・南川裕隆（愛知） 手塚　勝・西田豊三（福井）
第 64 回 全国高校総体 （24 ペア）	佐賀県 神埼市 小城市 武雄市 基山市	7 月 30 日 ～ 8 月 4 日	◎武智　誠治○ 本田昭太・田渕元雄（協会指名）　高橋恭文・塚本　光（協会指名）　小田健介・鈴木孝明（北海道） 市丸成彦・谷藤　航（岩手）　土橋邦彦・清水啓佑（長野）　志々場祐太・城戸佑太（福井） 冨田　拓・野平健二郎（茨城・埼玉）　山下祐樹・古川英樹（岐阜）　各務宗孝・森　裕太（岐阜） 木下豪人・竹ノ下晴彦（和歌山）　駒谷研志・波多野祐介（兵庫）　白川裕隆・水津研二（山口） 野島祥之・石原秀和（岡山）　山本　淳・山本孝志（島根）　小川昌志・天野誠司（徳島） 山地　翔・川内健矢（香川）　田中　愛・白石　智子（愛媛）　神田史朗・岩永東祐（鹿児島） 林　奈緒美・貞包圭介（佐賀）　鶴田祐一郎・近藤晋一（熊本）　亀井一寿・堀川智宏（大分） 関東ブロックから　次々年度開催地（大阪）から　亀川政文・権藤洋文（開催県）
第 18 回 ジャパン オープン （12 ペア）	長崎県 佐世保市	8 月 11 日 ～ 8 月 14 日	◎藤井俊朗　○島村浩信　○金子弘明 浦川寿生・石崎章弘（協会指名）　大熨嘉彦・山本篤洋（協会指名）　亀山耕司・水谷省一（北海道） 得居秀匡・村上　隆（東京）　新井友彦・中嶋　秀（兵庫）　藤本貴啓・鳥羽　勇（大阪） 川崎　尚・飯島浩太（山口）　岡田雅央・藤本靖雄（山口）　宮崎光一・大崎　祥弘（高知） 上杉洋一・宮崎和彦（大分）　黒島直人・金城勇人（沖縄）　木下豪人・竹ノ下晴彦（和歌山）
第 42 回 全国中学校 （9 ペア）	愛知県 豊田市	8 月 20 日 ～ 8 月 23 日	◎齊藤仁宏　○坪井雅典 本田昭太・田渕元雄（協会指名）　小澤邦紀・越智康裕（福島）　桶家秀介・魚川友康（富山） 羽角健二・松尾茂雄（埼玉）　水野　遼・山田祐輔（愛知）　下屋幸比古・畑中寛之（岐阜） 寺内啓之・細川泰輔（大阪）　岡村敏行・濱口雄飛（兵庫）　作道　勉・田鍋由朗（愛媛・次期開催県）
第 68 回 国民体育大会 （18 ペア）	東京都 新宿区 墨田区 品川区 多摩市 武蔵村山市	10 月 3 日 ～ 10 月 7 日	◎藤井俊朗　○浜田浩和　○高島幸嗣 島尻真理子・太田智子（協会指名）　安田　寛・永春文義（協会指名）　大熨嘉彦・山本篤洋（協会指名） 比留間　康・北嶋　浩（協会指名）　高橋容平・磯部尚志（北海道）　荒尾祐治・桜庭正明（青森） 野地敏雄・小俣宏之（福島）　仲野和也・藤坂明雄（福井）　高橋　智・石橋正行（埼玉） 高橋恭文・塚本　光（東京）　貝沼圭吾・須原幸一（三重）　片山　聡・大岩広人（静岡） 北山力也・貝田良寛（兵庫）　近畿ブロックから　國澤　隆・指野　緑（岡山） 蟻川武司・瀬良研一（愛媛）　川端祐貴・今泉暢禎（福岡）　青木忠久・原口佳也（長崎：次期開催県）
男子第 55 回 女子第 48 回 全日本学生 （3 ペア＋ 11）	山梨県 甲府市 山梨市	11 月 23 日 ～ 11 月 27 日	◎高野　修　○　＊各ブロック学生連盟からの推薦を参考に調整。 河合威廷・臼井　健（協会指名）　黒木龍二・黒木秀吾（協会指名）　小川至門・内記　徹（協会指名） 各地区学連より選出　坂本晴昭・平塚亮介（山梨、開催県）
第 65 回 全日本総合 （8 ペア）	愛知県 名古屋市	12 月 24 日 ～ 12 月 28 日	◎藤井俊朗　○仲田　稔　○浜田浩和　○坪井雅典 日本協会競技本部で選出
第 22 回 JOC カップ （14 ペア）	福島県 福島市	12 月 24 日 ～ 12 月 27 日	◎齊藤仁宏　○中舘　豊 日本協会指名 1 ペア（総合決定次第）　合田享弘・橋本　賢（北海道）　村杉善之・飯塚敏章（福島） 岩角聖孝・上飯坂　徹（岩手）　渡辺英治・伊藤　奨（山形）　大石克哉・桜打佳浩（富山） 田村裕志・川江俊樹（石川）　得居秀匡・村上　隆（東京）　戸塚幸廣・勅使河原誠（群馬） 軒田隼人・栗田基秀（静岡）　吉田　健・岡野哲裕（京都）　森山　透・馬場智也（広島） 河野翔保・小笠原龍太（愛媛）　前上里亘・知念昌平（沖縄）
第 9 回 春の中学大会 （18 ペア）	富山県 氷見市	3 月 25 日 ～ 3 月 29 日	◎藤井　俊朗　○岩上浩一郎 河合威廷・臼井　健（協会指名）　油上　智・中村行志（協会指名）　古賀直哉・荒井啓貴（宮城） 佐々木充宏・高階和也（秋田）　森　義久・中川英明（富山）　小岩井浩明・森山海里（長野） 土橋邦彦・清水啓佑（長野）　佐藤卓也・園谷健志（福井）　沢崎亮太・阿部　哲（千葉） 山口悠歩・金井匡司（群馬）　中田　隆・野中　毅（栃木）　伊東史裕・菅原圭悟（神奈川） 若森紗羅良・岩井友美（岐阜）　山下祐樹・古川英樹（岐阜）　飯田一郎・早瀬　司（滋賀） 新井友彦・中嶋　秀（兵庫）　竹安未央・浜田倫暢（鳥取）　弘田睦仁・浜田哲雄（高知）
第 37 回 全国高校選抜 （18 ペア）	愛知県 豊田市 岡崎市	3 月 25 日 ～ 3 月 30 日	◎武智　誠治○ 安田　寛・永春文義（協会指名）　比留間　康・北嶋　浩（協会指名）　合田享弘・橋本　賢（北海道） 辺　輝哲・工藤和貴（岩手）　金坂英宣・東出拓也（石川）　徳光明博・塩野利明（石川） 堀江成典・東野流生（東京）　高橋　智・和久長義（埼玉）　青木　暁・田渕　舞（神奈川） 深見忠司・伊藤誠祐（愛知）　近藤　悟・吉田博紀（静岡）　田中孝一・千種直也（三重） 渡邊輝昭・板垣貴幸（愛知）　駒谷研志・波多野祐介（兵庫）　前田隆志・北羅雅士（大阪） 浅野幹也・森實岳史（愛媛）　海江田貴嗣・積　芳広（鹿児島）　大谷浩司・杉浦知雄（愛知）

◎：審判長　○：副審判長

公認審判員Ａ・Ｂ級審査会とレフェリーコースの開催について

（公財）日本ハンドボール協会 審判部 審査指導専門委員会 委員長　越田 義昭

平成25年度（公財）日本ハンドボール協会（以下J.H.A.）公認審判員Ａ・Ｂ級審査会とレフェリーコース、ならびに社会人連盟レフェリーコースの開催にあたり、日程と審査内容をお知らせします。

今年度は同Ａ・Ｂ級審査会の開催方法を変更しました。例年、Ａ級審査会は年に１回の開催であったため、書類審査に合格しているにもかかわらず、公務の都合でどうしても審査会に出席できない受験者が幾名もいました。そこで、実力のある審判員がひとりでも多くＡ級資格を取得できるよう、受験の機会を増やして全国３会場（全国クラブハンドボール選手権大会東地区、中地区、西地区の３大会）で開催することにしました。Ｂ級審査会については、上記３大会でＡ級審査会と合同で実施し、さらに関東地区で１会場を設けました。

受験に際して競技規則筆記試験と実技試験の準備を十分に行ってください。過去３年間の成績を振り返ると、筆記試験はすべて協会発行の競技規則問題集（解答付き）から出題されているにもかかわらず、その成績は芳しくなく、勉強不足が感じられます（表を参照）。筆記試験はきちんと準備をすれば受験者全員が合格して当然だと考えています。実技試験に関しては、基本的な事柄（立ち姿、走るコース、ジェスチャー）が身に付いていない受験者を毎年見受けます。事実判定では、段階的罰則の理解度が低く、攻撃側の違反について甘さが散見され、ナイスディフェンスすら見極められないケースも多く、真に残念に思います。プレーを正しく理解して競技規則を的確に適用できるよう、十分に研修を積んで受験に臨まれることを期待しています。

【J.H.A. 公認審判員Ａ・Ｂ級審査会】

①東地区Ａ・Ｂ級審査会
期　日：平成25年7月19日（金）～21日（日）
大会名：全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会
会　場：福島県本宮市　本宮市総合体育館ほか

②中地区Ａ・Ｂ級審査会
期　日：平成25年7月19日（金）～21日（日）
大会名：全国クラブハンドボール選手権大会中地区大会
会　場：大阪府大阪市　舞洲アリーナほか

③西地区Ａ・Ｂ級審査会
期　日：平成25年7月5日（金）～7日（日）
大会名：全国クラブハンドボール選手権大会西地区大会
会　場：鹿児島県姶良市、霧島市　姶良市姶良体育館ほか

※上記①～③審査会の日程と審査内容について
審査初日（金）
集合：東地区　14時30分　本宮市総合体育館
　　　中地区　17時30分　ホテル「クライトン江坂」
　　　西地区　15時00分　姶良市姶良体育館
開講式と競技規則筆記試験：審判会議に出席した後に実施
西地区のみＡ級受験者体力試験 17時より実施
審査２日目（土）
実技試験：Ｂ級、その後にＡ級を実施
体力試験：実技試験の終了後、Ａ級受験者のみを対象に実施
Ｂ級受験者は実技試験終了後、散会
審査３日目（日）
実技試験：Ａ級のみ実施、終了後に閉講式、解散

④関東地区Ｂ級審査会
期　日：平成25年6月21日（金）～23日（日）
大会名：関東ハンドボール選手権大会
会　場：群馬県富岡市　富岡市民体育館他

※上記④審査会の日程と審査内容について
審査初日（金）
集合：15時30分　生涯学習センター
開講式と競技規則筆記試験：審判会議に出席した後に実施
審査２日目（土）　実技試験
審査３日目（日）　実技試験、終了後に閉講式、解散

【J.H.A. 主催レフェリーコース（前・後期）】

前期研修会
期　日：平成25年8月12日（月）～14日（水）
大会名：高校生ハンドボール長浜ドーム大会
会　場：滋賀県長浜市、彦根市
　　　　実技研修は長浜ドーム、講義と宿泊は彦根ステーションホテル
後期研修会
期　日：平成26年3月予定
会　場：京都府予定

今年度はさらに関西学生ハンドボール連盟の招致により、同連盟に所属する受験者を対象に同レフェリーコース（前期研修会のみ）を別途実施する。講師はJ.H.A. 審判部審査指導専門委員会委員が務める。後期は上記の研修会と合同で実施する。

前期研修会
期　日：平成25年9月21日（土）～23日（祝）
大会名：関西学生ハンドボール秋季リーグ戦
会　場：京都府宇治市、田辺市
　　　　実技研修は京都府立山城総合運動公園太陽が丘体育館ほか、講義と宿泊は宇治第一ホテル

【J.H.A. 主催社会人連盟レフェリーコース】

期　日：平成26年2月8日（土）～9日（日）
大会名：全日本社会人ハンドボールチャレンジ2014大会
会　場：山口県周南市
　　　　実技研修・講義ともキリンビバレッジ周南総合スポーツセンター

表：過去３年間におけるJ.H.A. 公認審判員Ａ・Ｂ級審査会の合否結果

年度	級	受験者	合格者	不合格者	合格率	不合格者：競技規則試験／実技試験
H.22	A	36名	19名	17名	52.8%	4名／14名（重複不合格1名）
	B	52名	35名	17名	67.3%	5名／13名（重複不合格1名）
	計	88名	54名	34名	61.4%	9名／27名（重複不合格2名）
H.23	A	22名	13名	9名	59.1%	2名／ 8名（重複不合格1名）
	B	66名	40名	26名	60.6%	8名／20名（重複不合格2名）
	計	88名	53名	35名	60.2%	10名／28名（重複不合格3名）
H.24	A	25名	17名	8名	68.0%	1名／ 7名
	B	61名	35名	26名	57.4%	5名／21名
	計	86名	52名	34名	60.5%	6名／28名

日本ハンドボール協会創立75周年記念誌 刊行

日本ハンドボール協会は、平成25年2月2日をもって、協会創立75周年、4分の3世紀の節目を迎えました。これを記念して、日本協会では幾つかの事業を展開してまいりました。その中のひとつが創立75周年記念誌の編纂でした。これは主に創立以来の日本協会の歴史を纏めるとともに、これからのハンドボールを考える上での資料作りをコンセプトに進められました。渡邊会長の刊行の言葉には以下のように述べられています。

「大谷武一によって日本にもたらされたハンドボールは、日本陸上競技連盟より独立してから、75年、四分の三世紀の歴史を重ねました。これは偏に、先達諸氏の情熱と努力の賜物であり、深く感謝を致すところであります。

ハンドボールは、いま世界に広まり、約180カ国・地域で親しまれており、まさにグローバルスポーツとしての地位を築いています。近年の技術・戦術の発展や高度化は、オリンピックスポーツとしてふさわしく、さらにその地位を強固にしつつあります。

日本のハンドボールは11人制から始まりました。現在では、世界の主流である7人制ハンドボールが主に行われていますが、ビーチハンドボール、車いすハンドボール、マスターズハンドボールと、さまざまなカテゴリーに拡大しており、さらにはユースの世界選手権も設置され、年齢や状況の如何に関わらず、多くの人に親しまれるスポーツへと発展しています。

日本ハンドボール協会では、協会創立50周年に「日本ハンドボール史」と言う素晴らしい大作を纏めています。本誌では、この50年史を補完するとともに、日本ハンドボール100年に向けての礎とすべく、25年間を中心にその歴史と、展望を纏めています。内容としては、日本協会各年度の事業と動き、各都道府県協会の歩み、加盟団体の歩み、特別企画、記録編、資料編などです。この中には、さまざまなハンドボール人の熱い情熱と、奮闘の記録が詰まっています。本誌が、ハンドボールを愛する皆様にとりまして、ハンドボール発展のよりどころになることを願ってやみません。」

以上のように、日本協会の75年の動きを辿ることが出来、また、特別企画の座談会では、今後の発展を期する為の、貴重なご提言を戴いております。さらには、創立50年以降の全国大会優勝チームを中心として、当時のご努力の一端をご寄稿戴いております。ハンドボールファンの方々にも読んで面白い記念誌となっておりますが、学校関係の皆様には、是非とも図書館にお備え付け戴きたいと思っています。

お願い

記念誌は、ハンドボールファンの方々、都道府県協会やハンドボール協会関係者の方々に、すでに多く渡っております。編集委員会では、3度の校正を致しましたが、特に記録編では、全ての種別に亘る記録を網羅していることもあって、見逃しがあった様です。この件についてはすでにご指摘を戴いております。当時の関係者にしか分からない事実もございます。

つきましては、その様な事実をご発見なされました場合は、必ず、日本協会までご一報くださるようお願いいたします。

入手について

上にも述べましたように、すでに多くの記念誌が配布されております。また、日本協会ホームページに於いて、頒布のご案内をしておりますので、こちらをご覧くだされば幸いです。

なお、この記念誌は限定制作ですので、全部が無くなり次第頒布終了となりますことをお断りしておきます。

創立75周年記念誌 アンケートのお願い

①記載内容に関するご意見
②今後の記念誌のあり方
③良かった記事
④全体の感想（体裁を含めて）
⑤その他のご意見

以上に関しまして、8月末日までに日本協会事務局まで、メール、FAXまたは郵送でお送り下さい。
〒150－8050
東京都渋谷区神南1－1－1　岸記念体育会館内
FAX：03－3481－2367
E-mail：handball@japan-sports.or.jp

スコアールーム

第8回春の全国中学生ハンドボール選手権大会

開催期日：3月24日(日)～3月27日(水)
会　場：富山県・氷見市ふれあいスポーツセンターほか

【男子】

▼１回戦

東久留米西（東京）34（12－11，22－18）29 十和田ユース（青森）
矢巾北（岩手）44（24－8，20－13）21 境港第一（鳥取）
LHC静岡（静岡）26（10－11，16－6）17 那賀（和歌山）
菰野（三重）23（12－8，11－7）15 椿（愛媛）
培良（京都）29（12－11，11－12）27 富岡南（群馬）
（3－2　延長　3－2）
板津（石川）21（8－5，13－6）11 市川（千葉）
岐陽（山口）29（16－5，13－8）13 彦根南（滋賀）
桜田（愛知）16（9－7，7－8）15 総社西（岡山）
中川西（神奈川）36（16－7，20－14）21 羽後（秋田）
神森（沖縄）21（13－6，8－14）20 大体大附（大阪）
塩江（香川）28（11－13，17－6）19 福島第一（福島）
土合（埼玉）28（16－8，12－5）13 城東（徳島）
甲田（広島）32（14－13，18－18）31 多々良中央（福岡）
ヴァルト岐阜（岐阜）25（8－7，17－9）16 高砂（兵庫）
塩山（山梨）31（14－13，17－10）23 日吉（長崎）

▼２回戦

氷見西條（富山）33（16－9，17－15）24 東久留米西（東京）
松橋（熊本）45（26－6，19－8）14 朝倉（高知）
重富（鹿児島）39（16－14，16－18）35 矢巾北（岩手）
（3－1　延長　4－2）
LHC静岡（静岡）29（14－10，15－8）18 野木（栃木）
菰野（三重）26（16－8，10－13）21 更埴西（長野）
培良（京都）32（12－10，20－11）21 神埼（佐賀）
東根第一（山形）28（10－14，13－9）26 板津（石川）
（3－1　延長　2－2）
大分（大分）24（13－5，11－13）18 岐陽（山口）
桜田（愛知）24（14－7，10－10）17 桔梗（北海道）
中川西（神奈川）32（18－11，14－14）25 三松（宮崎）
神森（沖縄）23（12－9，11－11）20 氷見北部（開催地）
手代木（茨城）28（16－2，12－10）12 塩江（香川）
土合（埼玉）18（7－6，11－2）8 東大寺学園（奈良）
明倫（福井）32（17－15，15－11）26 甲田（広島）
ヴァルト岐阜（岐阜）45（22－5，23－3）8 柏刈（新潟）
塩山（山梨）27（14－11，13－12）23 中田（宮城）

▼３回戦

氷見西條（富山）35（16－11，19－7）18 松橋（熊本）
重富（鹿児島）31（16－13，15－11）24 LHC静岡（静岡）
培良（京都）27（13－9，14－7）16 菰野（三重）
大分（大分）32（13－10，19－13）23 東根第一（山形）
桜田（愛知）23（9－8，14－9）17 中川西（神奈川）
手代木（茨城）25（11－7，14－7）14 神森（沖縄）
明倫（福井）24（12－8，12－9）17 土合（埼玉）
ヴァルト岐阜（岐阜）36（20－8，16－15）23 塩山（山梨）

▼準々決勝

氷見西條（富山）35（23－12，12－12）24 重富（鹿児島）
大分（大分）32（14－9，18－12）21 培良（京都）
桜田（愛知）29（14－9，15－15）24 手代木（茨城）
明倫（福井）27（13－10，14－15）25 ヴァルト岐阜（岐阜）

▼準決勝

大分（大分）28（17－9，11－10）19 氷見西條（富山）
桜田（愛知）34（16－13，13－16）33 明倫（福井）
（2－1　延長　3－3）

▼決勝

大分（大分）25（10－7，15－10）17 桜田（愛知）

【女子】

▼１回戦

粕屋（福岡）23（11－6，12－4）10 甘楽第一（群馬）
西中原（神奈川）32（19－3，13－8）11 谷山（鹿児島）
見前（岩手）15（5－7，10－7）14 甲田（広島）
寺井（石川）16（12－2，4－8）10 今治東（愛媛）
大蔵（兵庫）17（8－5，9－7）12 湯沢北（秋田）
7beat（岐阜）24（9－5，15－7）12 神埼・東明館（佐賀）
東陽（栃木）22（9－10，13－9）19 凌雲（北海道）
けやき台（茨城）29（20－1，9－13）14 埴生（長野）
三松（宮崎）30（14－11，16－7）18 中田（宮城）
美東（沖縄）18（7－9，11－7）16 氷見十三（富山）
大阪ジュニア（大阪）26（12－16，14－7）23 上野（愛知）
尾花沢（山形）21（13－3，8－2）5 土佐（高知）

▼２回戦

氷見西條（開催地）18（9－10，9－7）17 粕屋（福岡）
香川第一（香川）24（9－7，15－9）16 郡山第一（福島）
西中原（神奈川）23（13－4，10－9）13 菰野（三重）
見前（岩手）32（15－1，17－9）10 能登川（滋賀）
原川（大分）20（8－6，12－6）12 寺井（石川）
戸塚（埼玉）19（12－6，7－5）11 大蔵（兵庫）
大住（京都）24（11－7，13－2）9 下津井（岡山）
東久留米西（東京）28（14－12，14－5）17 7beat（岐阜）
松橋（熊本）38（18－5，20－7）12 東陽（栃木）
平田（山口）24（12－5，12－8）13 大瀬（奈良）
けやき台（茨城）25（13－5，12－9）14 荒川（和歌山）
三松（宮崎）30（16－5，14－4）9 静岡東（静岡）
美東（沖縄）17（8－1，9－9）10 山梨北（山梨）
大阪ジュニア（大阪）52（32－4，20－4）8 境港第三（鳥取）
光陽（福井）23（12－3，11－8）11 小島（長崎）
富里北（千葉）19（10－5，9－10）15 尾花沢（山形）

▼３回戦

香川第一（香川）21（10－10，6－6）16 氷見西條（開催地）
（1－0　延長　4－0）
西中原（神奈川）25（12－6，13－9）15 見前（岩手）
戸塚（埼玉）17（7－8，10－7）15 原川（大分）
大住（京都）25（13－9，12－13）22 東久留米西（東京）
平田（山口）17（9－8，8－8）16 松橋（熊本）
三松（宮崎）18（10－10，8－7）17 けやき台（茨城）
美東（沖縄）22（10－8，12－10）18 大阪ジュニア（大阪）
光陽（福井）25（14－7，11－11）18 富里北（千葉）

▼準々決勝

西中原（神奈川）23（13－6，10－2）8 香川第一（香川）
大住（京都）23（12－9，11－5）14 戸塚（埼玉）
平田（山口）21（12－10，9－3）13 三松（宮崎）
美東（沖縄）24（10－4，14－10）14 光陽（福井）

▼準決勝

西中原（神奈川）28（15－5，13－8）13 大住（京都）
平田（山口）16（8－6，8－6）12 美東（沖縄）

▼決勝

西中原（神奈川）15（8－6，7－8）14 平田（山口）

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」4・5月入会・継続会員

【岩　手】中舘　豊、中島昭博、高橋元一【埼　玉】吉原　伯、豊田　武、豊田久恵、根城　泰
【千　葉】舎利弗芳子、外山朝子【東　京】塩川安賢、緑川正博、千葉栄一、中澤重夫、市川央人、大塚文雄、兼子　真、菊地知男、梶間珠美【神奈川】近久紀人、棚村友博、吉澤和美、斉藤航大、久保公雄、久保靖子、佐分正典【富　山】金原　至【石　川】酒谷信彦【福　井】森国琢人、斉藤　薫、吉田幸斗、谷口克也、飯田日菜、谷口貴大、宮下真和、飯田柊馬、吉田妃那、松本侑大、吉田和幸、宮下楓也、下川敬路、平林渉太、坂本健太、小寺莉音、稲村結人、渡利詩穂、森国元哉、上坂　瑞、森国真夕、渡利真明、長野　竜、増田ふう、田端隼也、升澤結菜、坪川公香、朝日友香、上村　舞、堀田芽依、柘植萌々香、糸井ひなた、藤田幸歩、高畑真子【愛　知】西川勤也、浅野克彦、久村修三、山本幸代【三　重】加藤　公【大　阪】吉田敏明、草ノ井文子、大西和雄【岡　山】村田憲俊【広　島】山下明子、小山　章、有田　忍【沖　縄】大城一樹

【7月・8月の行事予定】

【会議】
7月13日(土)　常務理事会

【大会】
7月3日(水)～7日(日)
第3回全日本社会人選手権大会（山口県・周南市）
7月6日(土)～7日(日)
第33回全国クラブ選手権大会・西地区大会（鹿児島県・霧島市ほか）
7月20日(土)～21日(日)
第33回全国クラブ選手権大会・中地区大会（大阪府・堺市）
7月20日(土)～21日(日)
第33回全国クラブ選手権大会・東地区大会（福島県・本宮市）
7月26日(金)～28日(日)
第18回ヒロシマ国際大会（広島県・広島市）
7月30日(火)～8月4日(日)
第64回全日本高校選手権大会（佐賀県・神埼市ほか）
8月1日(木)～4日(日)
第26回全国小学生大会（京都府・京田辺市）
8月2日(金)～4日(日)
第21回全日本マスターズ大会（岩手県・花巻市）
8月10日(土)～23日(金)
第5回男子ユース世界選手権（ハンガリー・ブタオロス）
8月17日(土)～18日(日)
第40回全国高等専門学校選手権大会（青森県・十和田市）
8月20日(火)～23日(金)
第42回全国中学校大会（愛知県・豊田市）
8月24日(土)～25日(日)
第15回全日本ビーチハンドボール選手権大会（兵庫県・神戸市）
8月31日(土)～2014年2月23日(日)
第38回日本リーグ（全国各地）

HAND BALL CONTENTS Jun. Jul.

（登録チームの購読料は登録料に含む）



（公財）日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』第五三六号

平成二十五年六月二十六日印刷
平成二十五年七月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話　代表〇三―三四八一―二三六二
振替　〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人　川上憲太

定価　年間三三〇〇円